

今日のトピック 2015年の振り返り（世界の株式市場）

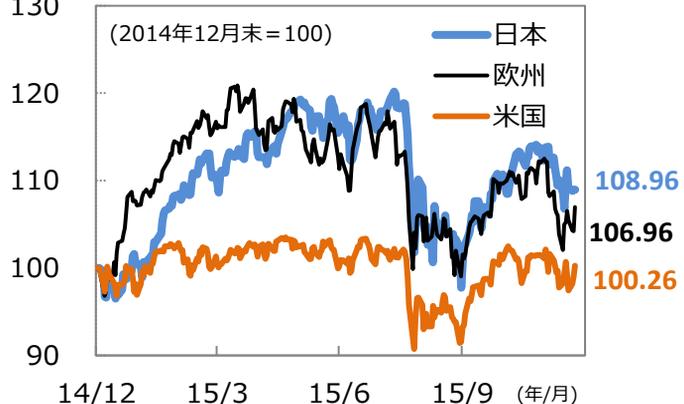
金融政策と中国要因に一喜一憂、波乱の展開

ポイント1 先進国は年間プラスへ

量的緩和期待とチャイナ・ショック

■ 2015年は、量的緩和期待から欧州株式が4月まで急騰し、日本株式も6月まで堅調でした。その後ボックス圏で推移していた日欧株式は、米国株式とともに中国経済の腰折れ懸念や人民元の切り下げを背景とした8月の世界同時株安（チャイナ・ショック）から調整を余儀なくされました。その後は中国の金融緩和策などを背景に先進国株式市場は落ち着きを取り戻しましたが、12月以降は欧州の追加緩和が市場の期待にそわなかったことや米国の利上げの影響を見極める動きなどから、慎重な推移となっています。

2015年の日・米・欧の株価指数



(注) データは2014年12月31日～2015年12月23日。日本はTOPIX(東証株価指数)、欧州はス톡ス欧州600、米国はS&P500。計算日に取引所が休場の場合は、その前取引日の数値で計算。

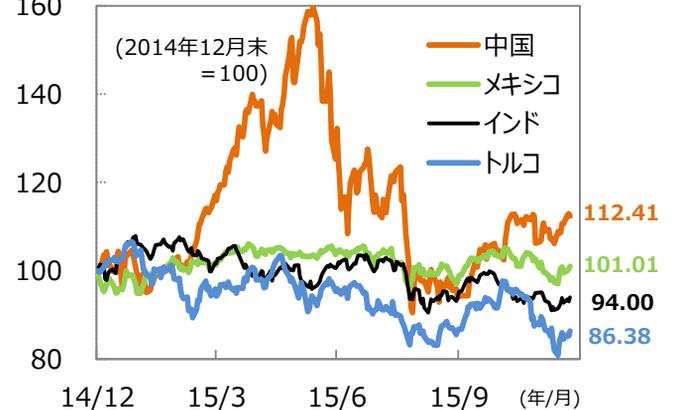
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 急騰・急落の中国株式

新興国は総じて軟調

■ 中国株式の騰落率は昨年末比でプラスとなっていますが、2015年は年前半に急騰、年央に急落する激しい値動きとなりました。特に8月以降の下落は、突然の人民元切り下げが中国経済と世界経済の先行き不透明感を強めたことで世界中の株式市場にマイナスの影響を与えました。中国株式は値を戻しつつありますが、多くの新興国が、米国の利上げによる資本流出や通貨安への懸念から軟調な展開となっています。

2015年の主な新興国株価指数



(注) データは2014年12月31日～2015年12月23日。中国は上海総合指数、メキシコはボルサ指数、インドはS&P BSEセンセックス指数、トルコはイスタンブール100指数。計算日に取引所が休場の場合は、その前取引日の数値で計算。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

先進国中心の展開、新興国への広がり期待

■ 2016年は先進国株式市場中心の展開となる可能性があります。欧州は、原油安によって再び追加緩和の期待が高まる展開と思われます。日本も企業の好業績に加え、7月の参議院選挙を睨んだ

政策発動が期待されます。米国は緩やかな利上げ局面の中、企業業績の底堅さを好感する展開が期待されます。先進国が堅調に推移することで、新興国株式への好影響も期待されます。

**ここも
チェック!**

2015年12月22日 2016年の日本経済の見通し
2015年12月16日 2016年のユーロ圏経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。